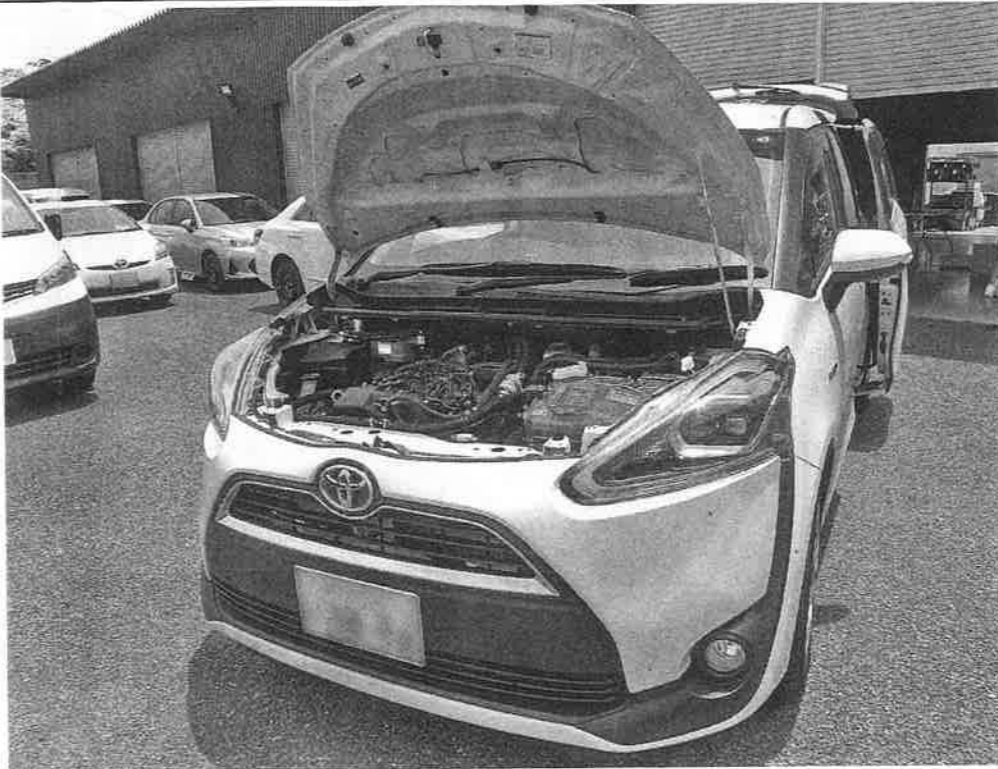


「アクシオ」 教習車が150台突破 「シエンタ」タクシー用車手応え

エフ・ケイメカニックス 大分市、古川克己社長

エフ・ケイメカニックス(古川克己社長)は2007年にバイフューエル車(ガソリン・LPGガス併燃)の販売を開始



タクシー向けに手がけたシエンタハイブリッドのバイフューエル仕様

始した。欧州で多くの実績がある電子制御LPGガソリン併燃車(バイフューエル)の需要が伸びている。近年は教習車とタクシ

ーの需要が伸びている。近年は教習車とタクシ

教習車のトヨタ・カローラアクシオはこれまで1500台以上出荷。トヨタ・コンパクトの製造中止を受け、自動車学校向けにガソリン専燃の「トヨタ教習車」が発売されたが、多くの学校が自前のオートガスタンドを持ち、LPG車の経済性を熟知した関係者も多いことがバイフューエル車への改造需要を押し上げた。古川克己社長は分析する。

一方で、自前のスタンドを持ちながら、今後はLPG車がなくなるものと判断してガソリン車やハイブリッド車に買い替える方針の学校もある。大口の供給先を失うLPG事業者にとっては死活問題だ。そうした事業者が同社のバイフューエル車を紹介し、納車につながった事例もある。

教習車が増加する背景には高齢化もある。少子化や若者のクルマ離れで

入校者減が続いていたが、高齢者の免許更新に実技試験の義務化が確実視され、高齢の入校者増が予想されている。21年11月には新車の全車種に衝突防止装置が搭載され、高齢者が安全に運転できる環境整備が進む。「入校者が増加に転じることを受け、学校が教習車を買い替える機運が生まれている。送迎バスもバイフューエル車にするなどで燃費を圧縮できる。併せて提案していく」と古川社長。同様にバイフューエル車に熱視線を注ぐのがタクシー業界だ。車種はコ

直噴向けキット拡充 ニーズ多様化に積極対応

ケイテック 酒田市、小松豊社長

改造キットメーカーのケイテックは、タクシ

ー車は今後ニーズや用途に合わせて多様化していくとみて、改造可能な車種が多い強みを生かしてタクシー会社への営業を強化していく方針だ。

同社がLPGバイフュー

LPG車普及を継 1店1台グループ挙げ

サイサン さいたま市、川本武彦社長

サイサンはガスワンゲループのオリジナルブランド「Gas One」を展開している。直近2年半で社有車200台をLPG車に改造した。1月には南関東支店にジャパンタクシ

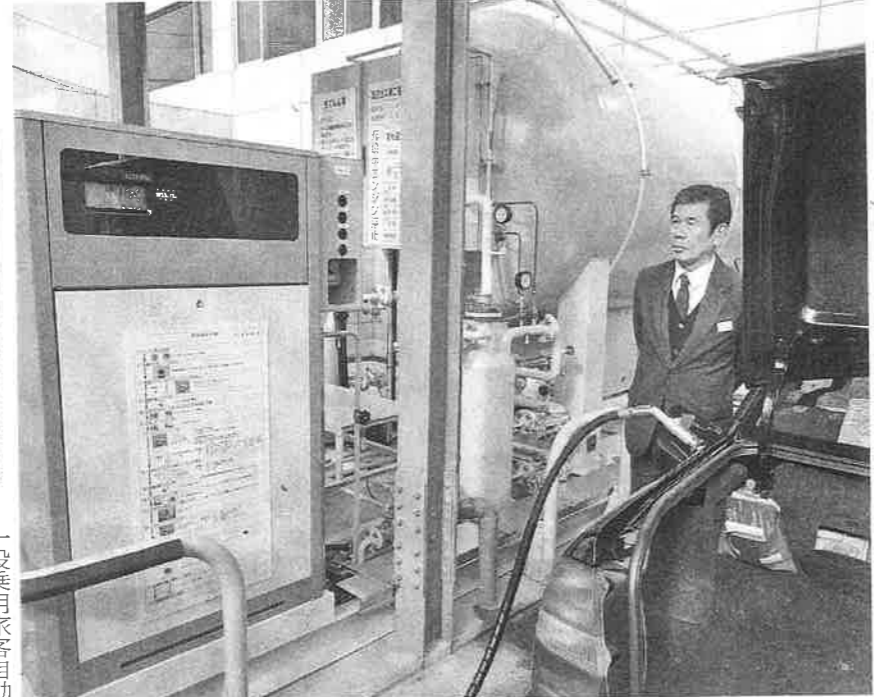
ーバン仕様を「エネワ」として販売した車種は、1として販売した車種は、当初はカローラアクシオ、プリウス、ノート、ノートeパワーなどだったが、その後は車室スペースに余裕のあるプレミオ、アリオオンが好まれるようになった。ハイエースやNV200バネットなどのワゴン車の改造も



中山隆執行役員
LPGガス販売部長

簡易スタンド運用開始 市と災害協定 輸送・避難拠点に

京都タクシー 亀岡市、川本恵三社長



簡易スタンドで乗務員が自ら充填し業務を効率化。災害時には地域の輸送・防災拠点として機能を発揮する

ガス発電機を設置した。タクシー会社によるオートコンボの導入は近畿で初めての事例。同社は一

能を発揮させる。同社は、京丹波町を事業区域に系列企業を含め70台の

一般乗用旅客自動車運送事業のほか、送迎バスなどの車両運行管理請負業、運転代行業を展開する有力事業者。本社のほかに4拠点を有する。設備はカグラペーパー製のオートコンボを採用した。2・5トバギー供給の新たな拠点ができてうれしい」と期待を寄せた。

桂川孝裕・亀岡市長は「当市は風水害で鉄道や道路網が止まり、陸の孤島になったことがある。市の中心的な場所に、危機管理に対応したエネルギー供給の新たな拠点ができてうれしい」と期待を寄せた。



1月に南関東支店にジャパンタクシー・バン仕様を「エネワでんき」宣伝カーとして導入した



手迎生にたてた